

「初期キャリア研究者研究交流会」

研究支援委員会 委員 島崎 剛(久留米大学)



去る2025年10月4日、日本社会福祉学会第73回秋季大会(同志社大学)にて、研究支援委員会企画「初期キャリア研究者研究交流会」が開催され、会員・非会員を問わず77名(会員外15名)の参加者を得て成功裏に終了いたしました。

研究支援委員会は、学会に所属する初期キャリア研究者や学会への入会を検討している方々を対象とし、その研究支援を目的とした企画を年1回開催しています。これまでの企画では「スタートアップシンポジウム」というシンポジウム形式で初期キャリア研究者を取り巻く諸課題を検討する機会を設けてきました。今年度からは新たな取組として「研究の構想段階」を共有する初期キャリア研究者研究交流会という形式へと移行しました。この新たな交流会は、初期キャリア研究者がこれまで取り組んできた研究や、これからの研究の展望について気軽に話す機会を設け、研究を通じた新しい交流を生み出すこと、そして研究内容に対する助言を受け、新たな視座を得てもらうことを目的としています。今回の交流会は、研究の展開に悩んでいる人や、現在進めている研究や実践プランに対して助言を受けたい人、研究者同士のつながりを作りたい人など、初期キャリア研究者であれば誰でも報告ができる場として企画されました。

当日は9時30分の開会後、2つのブースに分かれた「研究構想報告」が、9時35分から10時50分にかけて同時進行で行われました。この「研究構想報告」では、ヤングケアラー支援、地域包括ケア、マイノリティ支援など、現代の社会福祉が抱える多岐にわたる課題に関する研究構想が発表され、幅広い研究キャリアを持つ参加者による建設的な意見交換を通じて、報告者は研究の深化に向けた助言や新たな視座を獲得する機会を得ました。その後、10時50分からの参加者全員による「交流会」では、報告内容にとどまらない活発な情報交換や親睦が図られ、京都のお茶菓子やコーヒーを片手に11時30分の終了時間まで会場は終始和やかな雰囲気に包まれました。特に、参加者からはこの新しい形式の企画趣旨に繋がる多くの肯定的な感想が寄せられており「学会発表までには至らないが、構想報告の機会が多くの方からの貴重な意見を伺い、研究意欲が高まった」「研究交流によって行き詰りが解消された」「所属大学院では院生が少ないため、同じような悩みを抱える初期キャリアの皆さんとつながりができて心強い気持ちになった」といった声が聞かれ、本交流会が初期キャリア研究者の抱える課題の解消と、研究ネットワーク構築に大きく貢献できたことが確認されました。

次年度以降の秋季大会でも、初期キャリア研究者研究交流会を継続して実施予定です。初期キャリア研究者の皆様には是非チャレンジしていただきたいと考えております。また、学会会員の先生方におかれましては、後身の育成という観点でぜひご協力をいただきたく存じます。研究支援委員会は、今後もこのような機会を通じて、初期キャリア研究者が安心して研究を進め、社会福祉学の発展に貢献できるよう、継続的に支援活動を展開してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。